さんけん新聞

発　行
ＮＰＯ法人
三段峡―太田川
流域研究会
（代表・本宮炎）

〒731－3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木 1734
☎090・
3421・3046

倒木トチ 樹齢422年超え

峡谷の厳しい環境を生き抜く

９月に根返りした栂崎のトチの年輪調査と倒木後に更新する森林の講演会が11月30日、22人が参加してLOUPEで開かれた。年輪は422本、根元の幹周りは４㍍14㌢だった。

根返りしたトチ（上）と年輪を調べる青柳さん

年輪調査と「更新する森林」の講演会開く

年輪を調べた幹は根元から十㍍の切断面で、グラインダーで汚れを落とし、年輪十本ごとにピンを刺して集計した結果、四二二本の年輪を確認した。その間隔は狭く、平均すると幅五・八㌢が五十年分だった。

トチが芽を出したのは徳川家康が征夷大将軍に任じられた一六〇三年になるが、調査した広島大学大学院で森林生態学を専攻する青柳仁士さんは「大木の直径から樹齢を推定する研究によると、このトチは七〇〇年に相当する」との見方もできるとしている。

トチが立っていた急斜面は石が重なり、樹木の生育にとって峡谷の厳しい環境を実感させた。根元部分に大きな穴はなく、地面へ強く食い込んでいた形跡は見られなかった。

林の変化 予測困難

年輪調査の後、「倒木は森林に何をもたらすのか」と題した講演で青柳さんは、倒木によって出来た空間で育つ木々のうち、生存率と成長率の両方が高い種はなく、両立しないと説明。発芽したばかりの実生は草本類の影響も受け、土壌や周辺環境の違いによって、今後どのような林に変化するのか、予測するのは難しい、と述べた。

「あきおおたの楽しい１００人」三段峡への想い、関わり語る

トークイベントの「第三十三回あきおおたの楽しい１００人」が十一月二十九日、三十二人が集まって、LOUPEで開かれた。

登壇したさんけんの三人は本宮宏美事務局長と広大さんけん部の大本武部長、らぴっとカヤックスクール代表の小林久哉副理事長。

本宮さんは子供に関わる仕事からさんけんで働くようになった経緯や自然体験イベントへの想いを語り、大本さんは植物と三段峡が好きになったきっかけと今後の取り組みを紹介。小林さんはカヤックから見た風景と水の透明度の素晴らしさ、取り組んだ体験コンテンツについて話した。

町内の女性は「南峰さんも地区外の人、今も他所からの人が三段峡を大切にしている。地元として応援したい」と感想を述べた。

さんけんの自然体験活動紹介

本宮理事長　瀬戸内オリーブ基金の式典

認定ＮＰＯ法人瀬戸内オリーブ基金の設立二十五周年式典が十一月八日、岡山県国際交流センターで開かれ、環境教育についてのパネルディスカッションで本宮炎理事長が、三段峡での取り組みを紹介した。同法人を支援しているユニクロや大創産業の人らも登壇し、それぞれが実施する体験活動の意義を話した。

さんけんは今年度から三年間、渓畔林再生事業で同基金から助成金を受けている。三段峡を視察した事務局スタッフがさんけんの自然体験イベントに関心を持ち、出席の依頼があった。

ドローンで初撮影 三段峡の映像蓄積

井上嵩裕隊員が十一月十一日と十四日の両日、さんけんで初めて三段峡と黒淵をドローンで撮影し、鮮やかな景観を記録した。今後、三段峡の四季折々の映像素材を蓄積し、ＬＯＵＰＥ来訪者へ紹介したり、ＰＲ素材に活用したりする予定。

一口メモ

▼二季

今年の新語・流行語大賞の中に「二季」が選ばれた。春と秋が短くなる温暖化の影響を表した言葉だ。三段峡の紅葉のピークは十一月中旬だったが、例年になく月末まで多くの観光客が訪れた。樹種が多く上流と下流、Ｖ字谷の標高差があって、秋を長く楽しめる。冬は川の透明度が増し、雪が降れば山水画の世界になる。四季を感じられる特別名勝・三段峡は宝である。

セピア寫眞帖（37）

古い山道沿いの二谷 天を覆うトチ林

熊南峰が開峡当時の大正期に撮影した二谷（ふただに）のトチの大木である。二谷は正面口から約二㌔、景勝「塔岩」の裏から本流へ流れ込む二谷川を三〇〇㍍ほど遡った平たい場所である。苔むした石の隙間を清水が流れ、夏は密生したトチ林の葉が天を覆い、柔らかな光の空間となっている。神秘的な場所だが道はなく、滝の絶壁脇を越えなければ到達できない。

南峰は二谷を「ここは柴木部落から黒淵、藤ケ瀬宿泊所（注：楓林館）との交通路に当たっている」と記している。探勝路が出来る前、当時は山道が上流部へ通じていた。第二次大戦後も植林管理の道として維持され、現在も下流域は一部残っている。が、二谷周辺は崖崩れがあり、ここ五年ぐらいで急速に道が消え、容易には行かれなくなった。

トチは典型的な渓畔林の一種で、二谷に限らず峡内に多い。石が積み重なる湿った環境で生育し、大木になる。

材は漆椀の木地として使われた。製造技術が今に伝わり、販売されている三段峡の橡餅（とちもち）は、全国的にも貴重な山里の文化財なのである。（松尾俊孝）

「さんけんの歩み」（2024年11月～25年10月）

2024年11月	広島県観光連盟が観光地開発で三段峡視察▼県立叡啓大生がLOUPEでの活動報告▼オオサンショウウオ産卵巣穴初確認
１２月	名勝指定100周年事業で２講演会開催▼広島大公開講座を受講
１月	ひろしま環境ミーティングで活動報告▼三段峡−可部の連携PR
２月	イワナ保全の講演会・上映会開催▼台湾人モニターツアー実施
３月	DIY作業でLOUPE改装、カフェ充実▼広島県観光連盟の「HYPP AWARD」でDROPSに優秀賞▼チャリティー企画で多額の寄付金
４月	丸木位里ツアー・水墨画体験会開催▼渓畔林再生事業でトチの実を植え付け▼サントリー愛鳥基金の贈呈式で活動報告
５月	LOUPEでひろしま自然史ネットワークの会合開催▼三段峡キャラクター制作へ、土産品に活用▼国交省が三段峡で環境調査
６月	日本生態系協会と徳島希少鳥類研究会が視察▼井上嵩裕隊員が安佐動物公園で学芸員実習▼広大さんけん部に新部員が加入
７月	カープ公式戦のマツダスタジアムで三段峡と地元ブルーベリーをPR▼自然塾や中学生ら対象の自然体験４イベントを開催
８月	NTTドコモ中国が「三段峡　川の学校」を開催▼猛暑でDROPSツアーが人気▼広大さんけん部員二人が奥三段峡を探索
９月	魚類調査・ヤマセミ講演会を開催▼さんけん植物部が生き物観察会を開催▼第２回全国トチノキ学会で渓畔林再生事業を発表
１０月	トチノキの生育・植生調査を実施▼米国人オオサンショウウオ研究者が来訪▼EPOちゅうごくの事業で三段峡の歴史など説明